

V 關係資料

1 運営指導委員会

<運営指導委員>

氏名	所属・職	備考
石田 浩二	山北町教育委員会 教育長	関係行政関係機関の長
羽入田 眞一	早稲田大学教育・総合科学学術院教職大学院 客員教授	学校教育に専門的知識を有する者
小村 俊平	岡山大学 学長特別補佐	学識経験者

<令和3年度第1回運営指導委員会> (記録)

(1) 日時

令和3年7月7日(水)13時30分～15時30分

(2) 場所

山北高等学校 第一応接室

(3) 出席者

運営指導委員

石田浩二、羽入田眞一、小村俊平

山北高等学校

岩本明子、吉野雅史、内藤哲也、大川真弓、小関秀寿、沖津雅俊、山内未来、志村美登里
神奈川県教育委員会

川端麻穂(司会)、水野禎之

(4) 次第

○ 開会のあいさつ

(山北高等学校 岩本明子校長)

- ・ 本事業により生徒の発信力が4年前本校に奉職していた時と比べ高くなったと感じる。
- ・ 学校教育目標にある5つのCの育成(令和2年度研究開発実施報告書より)は本事業が始まってから若手中心で考えられたもの。中でも convey(伝わる力)に注目している。
- ・ 地域に支えられた学校であり、山北高校の伝統(スポーツの山北、規律を守る)はこれまでの努力により紡いでいる。
- ・ 山北高校の事業は「令和の日本型学校教育」につながるものとする。
- ・ 職員の不断の努力で本事業を作り上げている。そしてこの事業を今後どのようにつなげていくかが課題。

○ 運営指導委紹介及び出席者紹介

○ 委員長選出 羽入田眞一 委員

○ 報告・協議事項

ア 令和2年度の活動状況及び成果について 【内藤教頭】

a 令和2年度の取組について

① 昨年度はコロナ禍のため計画通りの実施は困難であった

- ・ 1学年は初年度の経験を生かして新しい取り組みに挑んだ。
- ・ 2学年は試行錯誤しながら授業を展開した。

- ② 令和2年度1学年の活動について
- ・ 1学年では「山北」「未病」「地域防災」で教員を3チームに分け、オムニバス形式で授業を進めた。
→ 教員の教材研究の負担が軽減されただけではなく、全担当が全生徒を見ることができ、指導に一貫性がもてた。
 - ・ 特に「山北」の単元ではRESASを活用し、客観的な数値をもとに考える習慣づけができた。
- ③ 令和2年度2学年の活動について
- ・ 2学年では学校設定教科「あしがら」に苦勞した。評価をする際には5Cを意識したルーブリックを作成し、5段階評定を行った。
- ④ フィールドワークについて
- ・ 1学年は初年度を踏襲した形で山北町を知るというフィールドワークを行った。
(令和2年度研究開発実施報告書 pp. 42-46)
 - ・ 2学年はそれぞれの課題に対して訪問先を選びインタビュー調査を行った。
(令和2年度研究開発実施報告書 pp. 56-58)
- ⑤ 発表について
- ・ 1学年では単元毎にクラスごとで発表した。
 - ・ 2学年ではクラスごとの発表に加え、令和2年12月17日に学校設定教科「あしがら」コース別発表会を実施した。(令和2年度研究開発実施報告書 p. 69-72)
 - ・ 学校全体としては事前に発表者の動画を録画し、オンラインで令和3年2月4日に発表会を行った。(令和2年度研究開発実施報告書 p73～)
→ 発表機会が多く増えたので、発表の技術力も高まったように思う。
- ⑥ 山北町とのつながりについて
- ・ 広報山北や自治会の回覧板に情報発信をさせていただいている。
(令和2年度研究開発実施報告書 pp. 98-102)
 - ・ 山北町教育委員会とNEXCO中日本のご協力により新東名の工事現場を見学することができた。
- b カリキュラム開発とその効果について 【小関総括教諭】
- ① 山北高校＝スポーツの山北というイメージがある中で、そのイメージを踏まえながら探究をどのようにできるのかが重要。
- ② 「未病」「地域防災」は昨年度から実施。
- ・ できることを模索してきた学校設定科目を設置するにあたって大幅にカリキュラムを変更した。
- ③ 1学年は「未来探究」2時間、2学年は「未来探究」1時間と学校設定教科2時間の計3時間
- ・ 1学年は「山北」「未病」「地域防災」を1ターン8時間でオムニバス形式で行った。
 - ・ 2学年の「未来探究」は昨年度の「山北」「未病」「地域防災」も絡めた形で実施した。
- ④ 令和元年度の教科等横断的な授業展開

- ・ 計画表をまとめることで視覚的に分かりやすくなった。（令和2年度研究開発実施報告書 p.83）

⑤ 令和2年度の教科等横断的な授業展開

- ・ 大正大学の浦崎教授のご講演を参考に、思考力育成のための「考えるための技法の活用について」①～⑦の中から各教科で活用できる思考力は何かをまとめた。
- ・ 思考力を高める授業を展開することで、生徒の中で様々な科目に渡ってネットワーク化され、課題解決したことが活用できる教科等横断的な取組に連結が期待できる。（令和2年度研究開発実施報告書 p.84）

⑥ 組織について

- ・ 連携推進グループ、学習支援グループ、キャリア教育グループが主となり事業を実施し、最終年度としてキャリア教育グループは探究活動を生かした進路活動に連結した。

イ 令和3年度の研究開発実施計画について

a 未来探究等の予定について【沖津総括教諭】

① 4月以降の動きについて（1学年）

- ・ 1学年は山北町を知るところから始まった。年度当初には山北町散策を実施。
- ・ 6月11日には1学年教員4名が興味のあることを5分程度発表し、プレゼンテーションのコツや相手に伝わるための話し方を生徒に伝えた。
- ・ 夏休み以降は「山北」「未病」「防災」をオムニバス形式で学習し、地域の課題や知識を得ることを目標に、課題設定につなげる。

② 4月以降の動きについて（2学年）

- ・ 2学年は自分の興味のあることを掘り下げ、マイウィルリスト（興味のあること100）をポスターセッション形式で発表した。
- ・ それに際して事前に、教員4名がポスターセッション形式で発表をした。
- ・ 発表の課題としては、生徒が発表を見るポイントとして改善点も挙げられる力を養成したい。
- ・ 夏休み以降は「未病」と「地域防災」に分かれて実施。

③ 4月以降の動きについて（3学年）

- ・ 3学年はカタパルトの協力の下、2年間の活動をブラッシュアップしている。特に、毎回の活動では、発表活動の反省や活動を行っている。
- ・ 山北町教育委員会の協力の下、6月には山北町議会に対して2グループがプレゼンテーションを行った。
- ・ 9月には地域を良くするアイデアコンテスト「未病改善部門」「地域おこし部門」「防災まちづくり部門」に分かれて発表する。

b 令和3年度のカリキュラム開発と授業改善について【小関総括教諭】

- ・ 「未病」は共通科目の授業と連携し実施することはできないか模索しながら始まった。
- ・ 「地域防災」では、自然に恵まれている一方で、災害が発生しやすい山北町で高校生ができることは何かを探究している。昨日の伊豆山の土石流の災害を受けて、山北町にもし

「盛り土」があるなら、その場所を見つけ、「盛り土」がある理由やその危険性の有無などを探究活動に取り入れて行うことができないのかを検討したい。

- ・ 総合的な探究の時間の単位数の増加により、余裕をもった授業展開はできたが、課題として教員同士でフィードバックを行うなどの余裕もなくなってしまっている。
- ・ 来年度から新学習指導要領が始まり、観点別学習状況の評価が3観点となる。「あしがら」に関しては現段階では3段階評価で行っているため、来年度の他教科の評価に取り入れることはできないのか考えている。

C 12月の発表会 【沖津総括教諭】

- ・ 12月17日は山北高校で発表し、ポスターセッション形式での発表を検討中。全員が5分間で発表できるように検討中
- ・ 12月18日は松田町生涯学習センターで発表し、午前と午後に分けて行う。
午前中は代表生徒6グループ【1学年1グループ、2学年2グループ、3学年3グループ】
- ・ 本番の発表では運営指導委員の先生方から講評をいただきたい。
- ・ 午後は他県などの外部の方を招き、生徒の発表、並びに職員による3年間の成果発表を行う。

(5) 指導・助言

【小村委員】

- ・ 「未病」と「防災」をテーマにしたのは先見の明がある。未病や防災を深く生徒に感じてもらえればいい。そのためには、日々の授業やコミュニケーションの中で、コロナや災害のことを取り入れることが大事。
- ・ 生徒たちの進路面での意識の変化は何かあるのか。
→ 2学年では神奈川衛生学園に先生による講演会があり、目を輝かせて講演を聞き、ツボを押し合っている姿が見られた。そのようなところにオープンキャンパスに行きたいという声があがっている。
- ・ 看護師を志望している生徒が少なからずいた。コロナ禍で自分と向き合う時間が増え、未病や地域防災の家庭での学習を通じた成果なのかもしれない。

【石田委員】

- ・ 3年目となり、全学年が取り組む様になって組織について動きがよくなってきたと思うが、仕掛けや工夫はあったか。
→ まず校内の分掌を少なくした。教員の意識として探究活動はやるものだと思ってやっている。
- ・ 一人ひとりの意識改革。探究に対する意識が一人ひとりに根付いてきているから、組織が構築されてきているのではないか。

【羽入田委員】

- ・ 防災に関しては1学年だけでは「防災」、2学年では「地域防災」となっているが、未病の方も、学校設定科目で「未病と地域医療」などに見てみたらどうだろうか。名称が変わることによって、生徒にはどのような変容が見られるのだろうか。
→ 地域に係る医療を未病にも取り入れることができればと思う。

(6) 委員の皆様へ質問

Q この3年間の指定では町に提言することを大きな目標として活動してきたが、提言の仕方
どのようにすれば良いのか？ (司会)

【小村委員】

- ・ まずは「議員レク」など活動している同世代がいることを伝える。
- ・ 発表会の場に地域の方、関連する企業の方に見ていただく。
- ・ 12月の発表では代表生徒を事前に生徒が選んで発表者を選出するが、発表者を選出する際に「何を目的に投票するか」を考えると良い。投票基準の一つとして、「実現したい未来が明確に描かれている」「実現の可能性が高い」「魅力的な企画である」などがあげられる。
- ・ 政策提言してアクションを起こすが、提案した後のその企画はどうするのか。後輩が先輩たちのものを引き継ぐ形で行うのか。3年生が行っている面白いことを学校広報にを使って、来年度入学生に引き継いでもらう形もとれる。

【石田委員】

- ・ 発表＝提言と思わないが一方で、発表を提言とすることもできる。いずれにせよ、発表の形式による。
- ・ 発表の後、町やコンソーシアムに対して発表することも可能ではないか。
- ・ 6月に行われた「山北町青少年健全育成大会」において山北高校の生徒が山北町に対する思いの作文を披露した。

【羽入田委員】

- ・ 3年生は政策提言をすることは知っているのか？ → 知っている。

Q. この事業を今後どのように継続したら良いか。12月の発表会の実施要項は暫定的なものであり、今後変更もある。(岩本校長)

【小村委員】

- ・ 不安と恐怖を感じさせて勉強させるのではなく、生徒の中からわき起こるような学習への取り組みを支援する教育活動ができたのだと思う。
- ・ 活動そのものを継続するのではなく、エッセンスを残して行う。
- ・ 例えば「生徒の中からわき起こるものを継続するために」ということを今後も行っていくのであれば何を残すのかを考えて事業を継続させる方法もある。
- ・ 自分の学校だけで抱えるのではなく、他校と連携する方法もある。

【石田委員】

- ・ 神奈川県教育委員会と山北町で今後も協定を結んで進めていきたい。

(7) 事務連絡

ア 神奈川県教育委員会高校企画室より

- ・ 令和2年度研究開発実施報告書は神奈川県ホームページにアップされ、その取組が紹介されている。

イ 岩本校長より

- ・ 昨年度はコロナ禍、今年度は異動が多数あり、4月、5月はなかなか本事業を前に進めることができなかったが、今は前に進みつつある。委員の先生方の言葉が励みになったので今後ともよろしくお願ひしたい。

<令和3年度第2回運営指導委員会> (記録)

(1) 日 時

令和4年2月3日(水) 15時00分～16時30分

(2) 場所 山北高等学校 [オンライン開催]

(3) 出席者

運営指導委員

石田浩二、羽入田眞一、小村俊平

山北高等学校

岩本明子、吉野雅史、内藤哲也、大川真弓、沖津雅俊、山内未来、志村美登里

神奈川県教育委員会

川端麻穂 (司会)

(4) 開会のあいさつ (山北高等学校 岩本明子校長)

(5) 報告事項

ア 令和3年度完了報告書について

a 研究開発の実績について

- ・ 1学年 未病と防災に分けてグループ学習を実施し最終の週にクラス内で発表会を実施。
- ・ 2学年 マイプロジェクトを実施。
- ・ 3学年 6月に山北町議会に対して発表。12月の校内と松田町の発表会と1月の山北町で発表実施。
- ・ 研究成果発表会終了後、情報交換会で他県の方からの情報も得ることができた。
- ・ この活動を今後にも繋げていきたい。
- ・ 山北町への政策提言を受けてのアンケートでは、好意的な意見が多かった。
- ・ カリキュラム開発等専門家の後藤氏には年間を通じて探究の授業に関わっていただいたが、更に12月の発表会に助言を頂いた。
- ・ 地域協働学習実施支援員では、新たに3名を加え、講演会の講師であったり授業に関わっていただいたりなど幅広く活動を行うことができた。

b 目標の進捗状況、成果、評価について

- ・ 町の広報誌に活動内容を広報。
- ・ 山北町への関心が高まっている。山北町役場への希望者も生徒の中にいる。山北町の魅力をSNSで発信したいという生徒もいる。

c 次年度以降の課題及び改善点

卒業によって生徒の取組が終わってしまうので、学年を超えた縦のつながりをつくり、生徒の取組を続けていける仕組みづくりが必要。

① 発表会の報告

12月の発表会では24名のコメンテーターからコメントをいただいた。

生徒だけでなく教員からも好評であった。現場の教員では思いつかない意見もいただけた。

1月の山北町の発表では、実際に今後行動に移して欲しいというご意見をいただいた。

② 全国サミット

山北高校の発表に対し「行政のバックアップはあるのか？」という質問があった。

(6) 委員の先生方からのご意見・ご質問

【羽入田委員】

町の広報誌に掲載されたとあったが、タウンニュースはどうか。

→タウンニュースでの記事は掲載されていることは確認されていない

【小村委員】

発表会はとてもいい場であった。探究の発表会は全国で増えている。

いい発表会とイマイチの発表会の違いは何か。

イマイチの発表は発表がゴールになっている。

発表の後どうなったのかが大事である。

町が応援したりしてくれる今を見極める。

今後、生徒の中で活動がさらに展開していけるのが示せると良いのではないか。

【石田委員】

山北町・山北町教育委員会・山北高校の3者共催で発表会を実施。

105名に参加していただき、73名の方がアンケートに答えて頂いた。

肯定的な意見が97%。継続して欲しいという意見があった。

今回は3チームだけだったが、他のチームの発表も聞きたいという意見があった。

高校生らしい山北町への気づきがあった。

探究の時間の取組がよくわかった。

(7) 山北高校側から今後について

【岩本校長】

最終的に山北町への提言という取組は今後とも行っていきたい。

町・コンソーシアム・地域協働学習実施支援員との協働も引き続き実施していきたい。

【川端専門員】

全国サミットの後、何か反応は何かあるか。

→反応は特にはない。

【羽入田委員】

12月の発表の評判はどうか。

→昨今、探究的な活動が大学入試でも問われているが、そこに通用する発表が数多くあった。

(8) 令和4年度計画について

1 学年 探究とは何か。

山北町について知り、地域の方の助けを借りながら行動していく。

協働する力を育てる。

2 学年 1 学年のときに学んだ知識を使いながら、自分の思いを他者に伝えるプレゼンテーションスキルを向上させる。未病・地域防災の視点で山北町の課題解決。

伝わる力を育てる。

3 学年 これまでの学習をもう少しブラッシュアップさせ、山北町へ政策提言を行う。

未来を切り拓く力を身に付けさせる。

【小村委員】

- ・ 先生方が今も困っていることは何か。学校外の組織からの支援はあるか。
→ 3年間の事業をベースに考えていきたい。文部科学省の指定が外れるので、資金的な部分で困る可能性がある。校外では山北町から多大な協力を得ているので、それを活かしながら、地域協働学習実施支援員等を活用して行っていきたい。
各学年中心になっている先生方が苦勞して探究活動に取り組んでいるが、教員間の温度差はある。全体でやっていく雰囲気を作りたい。

【石田委員】

- ・ 探究を広げ、深めていく必要がある。そのためには人材的な支援が必要になる。
- ・ 山北町と県教育委員会で協定を結んでいるので、できる限り協力していきたい。
- ・ 提言から町への参画も視野に入れて考えていきたい。

【羽入田委員】

- ・ 山北町との県教育委員会の協定について（指定終了後はどうなるか。）
→ 山北町と県教育委員会、山北高校共に継続していきたいと考えている。

(9) 指導・助言

【羽入田委員】

- ・ 2学年から3つの系に分かれるのは山北高校の大きな特徴。
- ・ 今までは「スポーツの山北」であったが、これからは「探究の山北」と看板をあげてみてはどうか。さらに広報を充実。山北町が著作権等を持っている写真等を山北高校のホームページで使わせてもらってはどうか。ドローンを使って写真を撮り広報に使うのもよい。
- ・ 発表会にOB・OGを呼び、探究活動の際の苦勞話やどのようなことを学んだのかなどを後輩に伝える。
- ・ 生徒が取り組んだ内容を年度ごとに冊子化し、それを図書館に所蔵して生徒の目に触れさせる。事前学習に活用してもよい。

【小村委員】

- ・ ホームページの活用も含めた地域への呼びかけを継続して行っていく。
- ・ 生徒を戦力として取りこむ。学びの受け手ではなく、学びの主体である。与えられた学びではなく、自分たちが当事者意識を持って取り組むことが大事。生徒が外に出ると、そのことによって生徒が刺激を受ける。生徒を信頼し、任せることが大切。
- ・ ICTをいかに活用するか。これにより、他校とも連携できるようになる。最初は調整のコストがかかるが、発表会の持ち回りや、オンラインで連携事業ができればよい。今まで作ってきた同じ指定を受けていた他県の高校とのつながりを継続・発展させるとよい。

【石田委員】

- ・ 0歳から15歳までの一貫教育・保育を考えている。
- ・ 山北高校卒業までの連携を考えている。発表会に中学生が参加するというのも良いのではないか。教員間の交流だけではなく、高校生と小学生及び中学生との交流をもっと行えたらと思っている。

【岩本校長】

- ・ スポーツと探究の二兎を追う山北へ。
- ・ 格安スマホを利用して写真や映像をホームページにもっと掲載できるように考えている。
- ・ 生徒が学びの主体であることは忘れてはならないと再認識した。
- ・ 自他を思いやる力、挑戦する力、協働する力、伝える力、未来を切り拓く力の5つの力を探究の核として身に付けさせていきたい。
- ・ 様々な報告書については、運営指導委員の先生方のご助言を踏まえて作り上げていく。

2 やまきた未来コンソーシアム

(1) コンソーシアムを組織した経緯

平成 30 年 3 月告示高等学校学習指導要領前文に「社会に開かれた教育課程の実現」「家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくこと」が重要と記されている。

については、県教育委員会の「県立高校生学習活動コンソーシアム」に倣い、本校においても本校を支えてくれる諸団体とコンソーシアムを組織することとした。

本校コンソーシアム（やまきた未来コンソーシアム・YMC）においては、構成員各所からのご提案や本校からの協力依頼に基づき、教育活動への支援をいただくとともに、本校の未来を地域の未来と重ね合わせ、本校の指導改善につなげている。

なお、以下の表への記載は割愛したが、山北町は県教育委員会との協定に基づき、全面的に協力してくれている。学校運営協議会への職員派遣、町職員によるコーディネーターチームの編成、地域協働学習実施支援員の紹介と謝金分担、生涯学習センターの利用料減免、広報・自治会回覧等による地域住民への周知など様々な支援を受けている。

(2) 令和元年度・令和2年度・令和3年度の実績等

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 令和元年 12 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活状況や意欲についてのアンケートの作成・集計に協力 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活状況や意欲についてのアンケートの作成・集計に協力 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活状況や意欲についてのアンケートの作成・集計に協力
有限会社小田原ドライビングスクール 令和元年 11 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災の取組み支援により、教員対象ドローン講習会を実施（令和元年 12 月職員対象） 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向けドローン講座（実技&座学）の準備（コロナのため実施できなかった） 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向けドローン講座（実技&座学）の準備（コロナのため実施できなかった）
株式会社ベネッセコーポレーション 令和2年 1 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> クラウドサービスを活用した学習指導についての助言・支援 生徒対象講演や職員研修の講師紹介 	<ul style="list-style-type: none"> クラウドサービスを活用した学習指導についての助言・支援 オンライン会議実施にあたっての技術的支援 	<ul style="list-style-type: none"> クラウドサービスを活用した学習指導についての助言・支援 オンライン会議実施にあたっての技術的支援
かながわ西湘農業協同組合 令和2年 3 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> 足柄茶ペットボトルの提供 		
山北町商工会 令和2年 8 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の地域協働学習実施支援員の紹介 本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介
相日防災株式会社 令和2年 8 月 17 日		<ul style="list-style-type: none"> 起震車手配 	<ul style="list-style-type: none"> 起震車手配 防災講演会開催
ゆいスポーツクラブ 令和2年 10 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> 未病の取組の支援、授業サポート 	<ul style="list-style-type: none"> 未病の取組の支援、授業サポート 生徒のプロジェクト実施支援（令和2年 12 月） 	<ul style="list-style-type: none"> 未病の取組の支援、授業サポート
山北町観光協会 令和3年 8 月 11 日		<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークでの、インタビュー対象団体の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークでの、インタビュー対象団体の紹介

南足柄みらい創りカレッジ	・ 学校運営協議会関連研修の SDGs カードゲーム運営支援		
山北町都市農村交流活性化推進協議会	1 学年フィールドワークのファシリテーター	1 学年フィールドワークのファシリテーター	1 学年フィールドワークのファシリテーター

(3) 令和3年度実績とこれからの目論見

- a 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部
 - ・ 生徒アンケート作成と集計に協力及び評価への助言
- b 有限会社小田原ドライビングスクール
 - ・ 地域防災でのドローン講座協力
- c 株式会社ベネッセコーポレーション
 - ・ オンライン会議支援
 - ・ Classi と StudyProgram の活用支援
- d かながわ西湘農業協同組合
 - ・ 協働企画へのお誘い
- e 山北町商工会
 - ・ 本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介
- f 相日防災株式会社
 - ・ 地域防災の授業へ講師派遣
- g ゆいスポーツクラブ
 - ・ 未病の取組の支援、授業サポート
- h 山北町観光協会
 - ・ フィールドワーク、インタビュー団体の紹介
- i 南足柄みらい創りカレッジ
 - ・ 協働企画へのお誘い
- j 山北町都市農村交流活性化推進協議会
 - ・ 1 学年フィールドワークのファシリテーター

(4) 今後（令和4年度以降）に向けて

- a 理念
 - ・ コンソーシアムを組織することにより、山北高等学校の未来を地域のステークホルダーと描き、社会に開かれた教育課程を実現していく。
 - ・ 学校と地域、企業が協働してどんな生徒を育てたいのか、その生徒たちとともにどんな地域の未来を作りたいか。地域のニーズに対応できるのか。ともに話し合うプロセスを作っていく。
 - ・ 多様な人々と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく資質・能力を生徒だけでなく、教職員も伸ばしていく。
- b 事業
 - ・ 山北町フィールドワークの実施（町の産業体験、街歩き、史跡巡りなど）
 - ・ 山北町、地域防災、未病等に係る生徒対象講演の実施（まちづくりワークショップなど）
 - ・ 山北町、地域防災、未病等に係る教員対象研修の実施（チームビルディングなど）
 - ・ 外部団体による山北高校情報発信（Instagram、Twitter など）

(5) コンソーシアム事業取組に関するアンケート

地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係るアンケートを実施し、この取組みにご協力頂いている団体及び地域協働学習実施支援員の方から今後の活用に関してのご意見をいただいた。

令和3年度 3年生探究発表会 発表一覧 別紙1

講演番号	タイトル	発表者	カテゴリ
1	山北町の発展	高橋 隆、安伏 山北	山北
2	人口減少を助ぐためには	秋元、菊池、高橋 山北	山北
3	山北町に人を呼び込むために	宮崎、小野、藤原、長崎 山北	山北
4	行ってみよう！生まれ変わった山北へ	小川、佐藤、若山 山北	山北
5	キャンプ人口増殖計画	込山、藤原、高橋、佐久間 山北	山北
6	山北の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北
7	山北町の人口を増やすための対策	木村、菅本、三富 山北	山北
8	山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北
9	山北町の人口を増やすための対策	木村、菅本、三富 山北	山北
10	山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北

11	山北町の人口を増やすための対策	木村、菅本、三富 山北	山北
12	山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北
13	山北町の人口を増やすための対策	木村、菅本、三富 山北	山北
14	山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北
15	山北町の人口を増やすための対策	木村、菅本、三富 山北	山北
16	山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北
17	山北町の人口を増やすための対策	木村、菅本、三富 山北	山北
18	山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北
19	山北町の人口を増やすための対策	木村、菅本、三富 山北	山北
20	山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパワエをつくるという結論に至りました。	伊村、藤原、山北	山北

別紙2	
2年生 探究課題 抜粋	
21 本邦改善 (運動)	60 今後の未来、医療高度を創るべき方法
22 コロナ禍を実現するには？	61 自信をもってポジティブに生きていくには？
23 公園などの静かに休める場所を増やす	62 きれいな山と海を保つためには？
24 自然がなくなる社会を実現するには？	63 ゴミのせいで動物が苦しまないようにするには？
25 コロナ禍で安心して生きていける社会の実現	64 皆が元気に暮らせる社会実現
26 高齢者の健康	65 ゲームが認められる社会
27 子供を産むには？	66 高齢者が元気に生きられる社会
28 短気な人が減るような世界にするには？	67 小学生が普通にトイレができるには？
29 少子高齢化を防ぐには？	68 ゴミがゼロできれいな町
30 地球温暖化を遅らせるには？	69 海のゴミがなくなるには？
31 高齢者でも元気に外に出られる社会	70 ニートが増える社会を減らす
32 50代になった時に後悔しないためには？	71 ペットの飼育放棄をなくするには？
33 コロナ禍でも楽しく生活するには？	72 地域交流を活性化するには？
34 バリアフリーを増やす	73 国民が平等になるには？
35 町の人口減少を防ぐには？	74 みんなが笑っている世界をつくるためには？
36 交通事故がない社会	75 業休みの前題をなくするには？
37 登下校の際に利用する電車でストレスなく乗るには？	76 老人ホームや高齢者にやさしいバリアフリーを増やす
38 いじめがなくなるには？	77 高齢者福祉の本数を増やす
39 山北の歴史をたどり振り返るには？	78 医療福祉を拓くためには？
40 千歳、奥田の地域の活性化を拓くには？	79 女性が育児と仕事を両立できるようにするには？
41 高齢者の健康で暮らせる社会	80 人種、男女差別のない社会を実現するには？
42 ゲームはスポーツであり、一種のコメディであること	81 LGBTの人が隠さずに社会を実現するには？
43 社会人や学生が十分な睡眠をできる社会をつくるには？	82 子どもが公園で遊んでいない
44 山北町に観光客を増やすには？	83 高齢者が多くても介護する人が少ない社会
45 誰もが食べられる社会を実現するには？	84 インターネットを上手に活用していく社会
46 小さい子どもが苦手な食品	85 誰もが「助かる」社会
47 全世代が元気に楽しく生きていける社会とは？	86 高齢者が家に運動できる機会をつくる
48 運動する人が減ってきている	87 高齢者が暮らしやすい社会にするには？
49 人種差別をなくするには？	88 食品ロスをなくするには？
50 地球の環境を守る	89 瀬河町に人を呼び込む
51 高齢者用の物を作る	90 全ての国でごはんを平等に食べるには？
52 差別がない社会を実現するには？	
53 若者が活躍する	
54 科学未来による未来 (A1)	
55 若者が積極的に政治参加する社会にするには？	
56 誰もが健康でいられる社会	
57 公共施設にバリアフリーを増やす	
58 食材などがムダにならない社会をつくるには？	
59 若者の負担を減らし、支える側を支えられる側も安心して生活できる社会を実現するには？	

地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係るアンケート

別紙1、2は本校生徒が取り組んでいる探究の研究テーマです。今後のコンソーシアム活用に向けて参考資料とさせていただきます。以下の質問にご回答いただきますよう、お願い申し上げます。なお、このアンケートが具体的なご支援につながるものではないことを申し添えます。

質問1 別紙1 別紙2中の課題から興味・関心をお寄せいただけるタイトルがありましたら番号をお答えください。
【複数回答可】

質問2 質問1での答えたいタイトルの中から、具体的に働きかけてほしいものについて、その方法を簡単に教えてください。

質問3 その他、本校に対することに関してご意見、ご質問ございましたらご記入ください。

所属	
空欄	
お名前	

提出期限を10月25日(月)とさせていただきます。
回答いたしました際印刷用紙片に入れて10月25日までに返送ください。
※電子メールアドレスをお知らせくださっている場合、ご案内に電子メールでもお届けいたします。それに返信して下さっても結構です。

1 別紙1 別紙2の中から課題から興味・関心をお寄せいただけるタイトルがありましたら番号でお答えください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 山北町の発展 | 43 社会人や学生が十分な睡眠をできる社会をつくるには |
| 2 人口減少を防ぐためには | 44 山北町に観光客をふやすには |
| 3 山北町に人を呼び込むために | 47 全世代が元気に楽しく生きていける社会とは |
| 4 行ってみよう！生まれ変わった山北町へ | 48 運動する人が減ってきている |
| 5 キャンプ人口増殖計画 | 50 地球の環境を守る |
| 6 山北絶品極上パフェ | 55 若者が積極的に政治参加する社会にするためには |
| 7 健康から始まるコミュニケーションって？ | 56 誰もが健康でいられる社会 |
| 8 山北町の人口を増やすための計画 | 58 食材などが無駄にならない社会を作るためには？ |
| 9 Walk instead!! | 59 若者の負担を減らし、支える側も支えられる側も安心して生活できる社会を実現するには |
| 10 機会と高齢者の暮らし | 61 自身をもってポジティブに生きていくには？ |
| 11 未病改善 | 62 きれいな山と海を保つためには？ |
| 12 新聞紙を使った運動 | 63 ゴミのせいで動物が苦しまないようにするためには |
| 13 近代と自然の融合 | 66 高齢者が元気に生きられる社会 |
| 14 学校でイベントを開催したい | 68 ゴミが0できれいな町 |
| 17 介護需要を少なくするには | 69 海のゴミがなくなるには |
| 19 2つの町の魅力とは | 72 交流を活発にするには |
| 20 渋滞 | 77 御殿場線の本数を増やす |
| 21 未病改善（運動で） | 82 子供が公園で遊んでいない |
| 22 コロナ収束を実現するには？ | 83 高齢者が多くても介護する人が少ない社会 |
| 23 公園などの静かに休める場所を増やす | 85 誰もが「助かる」社会 |
| 24 自殺がなくなる社会を実現するには | 86 高齢者が楽に運動できる機会をつくる |
| 26 高齢者の運転 | |
| 29 少子高齢化を防ぐには | |
| 31 高齢者でも元気に暮らせる社会 | |
| 32 50代になった時に公開しないためには | |
| 35 町の人口減少を防ぐには | |
| 36 交通事故の無い世界 | |
| 39 山北の歴史を使った町作りをするには | |
| 41 高齢者が健康で長生きできる社会 | |
| 42 ゲームはEスポーツであり、一種のコメディであるということ | |

2 1でお答えいただいたタイトルのうち、具体的に働きかけしていただけたものについて、その方法等を簡単にお書きください。

① 3.4.6.11.13.39.44.55

(山北町観光協会：佐藤精一郎様)

行政や各団体等と連携することにより、課題を掘り下げて短期・長期に分けて具体案を作る事が可能ではないか。

② 6.7.9.12.17.56.77

(山北町保険健康化 主任主事：草間恵美様)

関連する団体さんや役場の関係各課へ話をつなぐ。

③ 7.11.17.31.41.66.83.22.25.60.78

(足柄上地区在宅医療介護支援センター：堀田住子様)

授業やグループワークに参加してアドバイスをする。

地域の活動と見学に同行する。現場の生の声を聞く。

食育、健康推進、福祉、介護事業の各種計画を読み解く。

県立足柄上病院には災害時に出向く DMAT(災害派遣医療チーム)がある。DMAT のための救急車も持っている。また、新型コロナウイルス感染症の際も横浜港のダイヤモンドプリンセス号の患者を搬送し、治療にあたり、岩淵医師が有名になった。今もコロナ患者を収容する病院である。医師の講義や救急車の見学などできるかもしれない。

④ 72

(地域協働学習実施支援員 農業委員：高杉光男様)

町社協及び近隣自治会と連携をとり対象者を絞り月1回程度生徒が主体となり地域住民と一緒にラジオ体操を実施する。終了後は困っている事等の声を聴き地域の課題を掘り起こし共有していく。

⑤ 5.42.44 (山北町商工会：和田道徳様)

町の人口増は大切なテーマである。それと同様に関係人口増も大事だと考える。上記のタイトルをヒントに関係する事業者等と話ができればと考える。

⑥ 13.62.63 (向原連合自治会会長：瀬戸雅弘様)

長年登山を続けてきているので山(大きくは自然)とゴミ、山のトイレ問題、山と動物などについて興味がある。どのように具体的に働きかけできるか分からないが、声をかけていただければお手伝いできることはしたいと考えている。

⑦ 26.36.69 (小田原ドライビングスクール：沼倉聡様)

26.36 に関しては交通安全教育・講演等、69 に関しては水中ドローンを活用しての現状の調査等を行うことが可能である。

⑧ 1 (加藤陽一郎様)

山北町では「森林セラピー」や河村氏の「金箔押鳥帽子形兜」、民族文化財国指定「お峯入り」県指定「百万遍念仏」、国指定の箒杉、D52 などたくさんの「魅力あるもの」がある。森林セラピーなどは具体的に定期的に活動している。「ツアー」をすればよいとあるが、それらを紹介するためにどのような方法でツアーをすればよいのかを高校生に考えてほしい。私としては兜や落谷虹児の絵などをラシャ紙大にした資料を川村小(旧)が閉校する時に作成したので提供できる。

⑨ 4.64 (JA 神奈川西湘山北支店 支店長 佐藤克徳様)

やまきたブランド(農産物等)認定されている作物のPRや研究が可能である。

⑩ 1.8

(一般社団法人かながわ地区振興会 理事長:瀬戸恒彦様)

高校生が考える山北町の魅力を伝えるツアーに関心があります。山北町の発展のためには魅力あふれる体験プログラムを企画・実施し交流人口を増やす施策とともに地場産業の振興が必要である。現在、個別に実施している施策をつなげ統合化することが求められている。山北駅周辺の魅力を高めるためのワークショップを開催し、地域活性化に向けた政策を学ぶ機会を提供することができる高校生が考える空き家バンクの活性化及びホテルの家の活用方策に関心がある。山北町定住対策課所管の事業ですので高校生が考える施策について実現可能性を含め町の職員と意見交換する場を提供することが可能である。なお、商店街の空き店舗の活用についても町の人口を増やすための施策として重要ですので併せて検討することも有意義ではないかと思う。

⑪ 21

(Forest Edge 代表, フリーランス看護師, 神奈川県立西丹沢ビジネスセンター パート職員:東海林 真純様)

看護師: 看護師として未病についてディスカッション

22 (同上)

災害支援看護師: これまでの COVID-19 への取り組みへの振り返り

23 (同上)

森林セラピーガイド: 自然と心の健康についてのレクチャー

24 (同上)

精神科看護経験: 自殺予防についてのディスカッション

25 (同上)

災害支援看護師: これまでの COVID-19 への取り組みへの振り返り

43 (同上)

精神科看護経験・森林セラピーガイド: 睡眠と健康について学ぶ

47 (同上)

看護師・森林セラピーガイド: ストレスってなんだろう? ディスカッション

48 (同上)

看護師・森林セラピーガイド: 適度な運動が身体と心に及ぼす影響を学習

56 (同上)

看護師: 健康ってなんだろう? ディスカッション

61 (同上)

精神科看護経験・森林セラピーガイド: メンタルヘルスケアにおける心のメンテナンス

74

精神科看護経験・森林セラピーガイド: メンタルヘルスケアにおける心のメンテナンス

26 (同上)

看護師: 認知機能について学ぶ

29 (同上)

看護師: 少子高齢化とは?

31 (同上)

看護師: 高齢者との対話の機会の創生

41 (同上)

看護師: 高齢者との対話の機会の創生

51（同上）
看護師：高齢者からのヒアリング、実践計画へのアドバイス

66（同上）
看護師：高齢者との対話の機会の創生

76（同上）
高齢者からのヒアリング、実践計画へのアドバイス

83（同上）
訪問看護師としての経験：高齢者の介護って？自分の介護経験も踏まえて

86（同上）
訪問看護師としての経験：高齢者のリハビリテーションを学ぶ

87（同上）
訪問看護師としての経験：高齢者との対話の機会の創生

60（同上）
看護師：医療システムについて学ぶ

78（同上）
看護師：医療システムについて学ぶ

27（同上）
西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境保護の観点から実践計画へ

30（同上）
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境変化と人類との歴史を学習

50（同上）
西丹沢ビジターセンタースタッフ・森林セラピー

ガイド：まず、身近な環境について学んでみよう、フィールドワーク

62（同上）
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境保護の観点から実践計画へ、フィールドワーク

63（同上）
西丹沢ビジターセンタースタッフ：事例を探す

68（同上）
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境保護の観点から実践計画へ、フィールドワーク

69（同上）
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：実際活動しているグループを紹介（ICT、IOT）

84（同上）
個人的得意分野として：何かひとつ社会に役立つ使い方を実践できるようアドバイス

3 その他、本校に関することに関して、ご意見、ご質問ございましたら簡単にお書きください。

①（山北町観光協会：佐藤精一郎様）

山北町の課題を抽出していただき、山北町を住民より深く考えている事に感謝いたします。また、行ってみたい、住みたいをコンセプトに高校生の感性で提案していただけるとありがたいと思います。

②（足柄上地区在宅医療介護支援センター：堀田 往子）

コロナ禍ではありますが、フェイスシールドや手袋等持参して高校生と触れ合いたいです。

③（地域協働学習実施支援員 農業委員：高杉光男様）

“米”作る人いなくなったら・・・作物が全て輸入になったら・・・土地はどう変化していこう、考えると農業の魅力を若い時に感じることに必要。関心ある生徒にその環境づくりをお願いしたい。

④（向原連合自治会会長：瀬戸雅弘様）

お送りいただいた資料をひと通り拝見しました。授業の一環とはいえ生徒の皆さんが山北の諸問題につき興味を持ち解決策を考えてくれていることはうれしく思いました。それらのいくつかでも実行に結び付けばと思います。

⑤（小田原ドライビングスクール：沼倉聡様）

その他ドローンを活用しての災害対応等も可能です

⑥（加藤陽一郎様）

提供できるもの

1 兜、落谷虹児の絵（別添の2枚は、写真に撮ってA4版にしました。）

2 わたしたちの山北「歴史・文化から学ぶ」

3 足柄及文化 発表に必要なページ

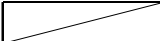
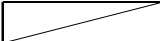
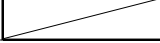
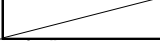
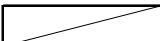
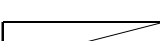
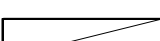
⑦（向原連合自治会会長：瀬戸雅弘様）

山北高校は1942年（昭和17年）に山北町立山北実科高等女学校として開校し、80年の歴史を刻む伝統校ですので、卒業生も大勢いらっしゃいます。こうした卒業生の力を結集して、山北町の未来を拓くためのエネルギーに変えられないかと考えます。山北町の活性化に向けて、一緒に未来を創る施策の企画立案、並びに実践をしていただける在校生及び卒業生のネットワークを構築したいと考えています。先日、ご提案した「SDGsまちづくりクラブ」の設置については時期尚早かもしれませんが今後のリーダー育成の観点からすれば、こうしたクラブ活動を通じて地域の課題を発見し、自ら実践していくことが自己の成長につながると思います。今後は有名大学に入るための偏差値教育よりも社会の役に立つ人間となるための人間力を磨く教育のほうが重要になると考えます。先日、見せていただいた山北高校のランドデザインがすべてです。こうした教育の実践がリーダーの養成につながり将来の企業経営者につながっていくことを期待します。

⑧（Forest Edge 代表、フリーランス看護師、神奈川県立西丹沢ビジネスセンター パート職員：東海林 真純様）

フィールドワークや地域との密接な関係を築く上でもこのような取り組みをまずは「山北町」にて実施していただければと思います。また、地域住民としても山北町の魅力をお伝えし興味を持っていただけるようお手伝いできればと思います。

3 目標設定シート

【別紙様式7】					添付資料	
ふりがな	かながわけんりつやまきたこうとうがっこう				指定期間	2019～2021
学校名	神奈川県立山北高等学校					
地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート						
1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
問題発見・解決能力						
*指定校にて実施するアンケートにおいて、「身の回りにある課題を発見し、その解決に向け、取り組むことができますか」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						
a	本事業対象生徒:		4月:43.5→2月:69.2	2月:64.9	2月:75.2	80.0
	本事業対象生徒以外:		60.1	2月:62.7	-	-
目標設定の考え方:「総合的な探究の時間」や学校設定科目等における地域課題の解決等の探究的な学びを通じて、課題を発見し、解決する力を習得させる。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
身近な人や地域の取組に関わり、協力することができる能力(社会性)						
*指定校にて実施するアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						
a	本事業対象生徒:		4月:50.8→80.8	2月:79.4	2月:82.0	80.0
	本事業対象生徒以外:		64.3	2月:68.2	-	-
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、地元にいる身近な人々や地域の取組に関わり、積極的に協力することができる能力を習得させる。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
幅広い年齢の人々と関わり、多様な考えを尊重し、思いやることができる能力(他者性)						
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合						
a	本事業対象生徒:		4月:25.1→88.4	2月:82.4	2月:86.1	90.0
	本事業対象生徒以外:		77.1	2月:75.1	-	-
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、地元にいる幅広い年齢や様々な立場の人々に関わり、自分以外の多様な考えを尊重し、他者を思いやることができる能力を習得させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
山北町での生活を希望する生徒の割合						
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						
b	本事業対象生徒:		4月:14.1→2月:20.8	2月:21.1	2月:19.4	20.0
	本事業対象生徒以外:		6.0	2月:9.7	-	-
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町への愛着を深め、山北町での生活を希望する生徒の割合を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
山北町に関係する就職を希望する生徒の割合						
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						
b	本事業対象生徒:		4月:6.8→2月:18.5	2月:20.1	2月:18.6	20.0
	本事業対象生徒以外:		5.0	2月:10.6	-	-
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町の諸産業に対する関心を高め、山北町に関係する仕事や職業に就くことを希望する生徒の割合を増加させる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
山北町に貢献することを希望する生徒の割合						
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合						
b	本事業対象生徒:		4月:49.7→2月:64.7	2月:56.8	2月:54.7	50.0
	本事業対象生徒以外:		34.4	2月:62.7	-	-
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町への貢献意識を持つ生徒の割合を増加させる。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
c	本事業対象生徒:					
	本事業対象生徒以外:					
目標設定の考え方:						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) プロジェクト推進会議(カリキュラム開発等専門家と各教科の教科主任等で構成する会議)の開催					単位:回数
		0	5	5	12	12
目標設定の考え方:カリキュラム・マネジメントを推進し、本プロジェクト全体の進捗状況を管理する会議として、月に1度開催する。						
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 研究授業の実施					単位:回数
		0	4	0	4	4
目標設定の考え方:学校一斉の研究授業を年4回実施する。このうち2回を公開する。						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 成果発表会の開催					単位:回数
		0	5	1	4	3
目標設定の考え方:毎年度末、各学年ごとに生徒が実施した探究活動の発表会を開催する。						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 管理機関が設定している指標に関するアンケート調査の実施					単位:回数
		1	2	1	2	2
目標設定の考え方:年度当初及び年度末にアンケート調査を行い、指標の達成状況を確認するとともに、次年度の改善に生かす。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域の外部人材の参画によるフィールドワークの実施状況					単位:回数×人数
		0	35	35	35	5×10
目標設定の考え方:年間5回程度実施予定の生徒の探究活動に係るフィールドワーク(10分野程度を想定)において、地域の外部人材の支援を受ける。						
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) コンソーシアム連絡会議の開催回数					単位:
		0	0	1	2	2
目標設定の考え方:コンソーシアム参加機関の担当者が出席する連絡会議を年度当初及び年度末に開催する。						
d	(その他本構想における取組の具体的指標)					単位:
目標設定の考え方:						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	590	630	628	628	565
本事業対象生徒数			199	393	565
本事業対象外生徒数			429	235	0

4 広報「やまきた」(地域に向けての取組紹介)

・令和3年5月号掲載

神奈川県立山北高等学校



★ 文部科学省と神奈川県から指定を受け、地域を教材とした課題解決型学習を行っています ★

- 1年生「知る」⇨ 山北町を知って課題の発見
- 2年生「探る」⇨ 実現可能な地域おこしプロジェクトの提案
解決策の提案
- 3年生「実践する」⇨ 改善策の検討・政策提言

※ 探究活動の取り組み

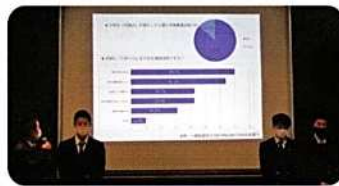
「すべての人に健康と福祉を」を軸に〈未病〉「住み続けられるまちづくりを」を軸に〈地域防災〉

☆文部科学省指定
地域との協働による高等学校教育
改革推進事業「地域魅力化型」

☆神奈川県教育委員会指定
「総合的な探究の時間」に係る研究
SDGsテーマとした展開に係る研究

探究活動発表会

令和3年2月4日(木)に探究活動の成果発表会をオンラインで行いました。新型コロナウイルスの影響で思うように活動できない中、生徒一人ひとりが探究活動を真剣に取り組み、町内を始めとして探究活動の成果を内外に発信しました。今後も活動は続きますので、温かいご支援・ご協力をお願いいたします。



山北町を知る

令和3年3月15日(月)、16日(火)、18日(木)、22日(月)の4回に分けて、「山北町を知る」「山北を探る」の探究活動の一環で、新東名の工事現場「山北PR館」を見学しました。



※詳しい活動内容は、神奈川県立山北高校HPをご覧ください。

【問合せ】神奈川県立山北高等学校 (電話) 75-0828 (代表番号)



神奈川県立山北高等学校



★ 文部科学省と神奈川県から指定を受け、 地域を教材とした課題解決型学習を行っています ★

- 1年生「知る」⇨ 山北町を知って課題の発見
- 2年生「探る」⇨ 実現可能な地域おこしプロジェクトの提案
解決策の提案
- 3年生「実践する」⇨ 改善策の検討・政策提言

※ 探究活動の取り組み

「すべての人に健康と福祉を」を軸に〈未病〉「住み続けられるまちづくりを」を軸に〈地域防災〉

☆文部科学省指定

地域との協働による高等学校教育
改革推進事業「地域魅力化型」

☆神奈川県教育委員会指定

「総合的な探究の時間」に係る研究
SDGsテーマとした展開に係る研究

山北町を知る

4月15日、1年生が新入生オリエンテーションで山北町のハイキングコース「水緑まんぶくコース」を歩きました。河村城址歴史公園や洒水の滝を見学し、山北町の歴史や自然について知る機会となりました。



探究活動発表会

6月24日、3年生の代表2グループ8名が山北町立生涯学習センターにて探究活動の成果を発表しました。ご出席していただいた方からは発表の仕方や内容について様々なご意見をいただきました。なお、1、2年生も探究活動の成果を12月に発表する予定です。



研究成果発表会

～次の日程で予定しています～

令和3年12月17日(金)

12月18日(土)

研究成果をご覧ください!

詳しくは今後ご案内します。

祝 関東大会出場

新型コロナウイルスの影響でなかなか思うように活動ができない中でしたが、感染対策に注意しながら生徒は日々練習に励んでいます。その結果、次の4つの部活動が関東大会出場を決めることができました。今後も温かいご支援とご協力をお願いします。



男子バレーボール部(ベスト16)



カヌー部



男子ソフトボール部(第5位)



弓道部

※詳しい活動内容は、神奈川県立山北高校ホームページをご覧ください。

【問合せ】神奈川県立山北高等学校 (電話) 75-0828 (代表番号)



神奈川県立山北高等学校



★ 文部科学省と神奈川県から指定を受け、地域を教材とした課題解決型学習を行っています ★

- 1年生「知る」⇨ 山北町を知って課題の発見
- 2年生「探る」⇨ 実現可能な地域おこしプロジェクトの提案
解決策の提案
- 3年生「実践する」⇨ 改善策の検討・政策提言

※ 探究活動の取り組み

「すべての人に健康と福祉を」を軸に〈未病〉「住み続けられるまちづくりを」を軸に〈地域防災〉

☆ 文科省指定（第3年度目）

地域との協働による高等学校教育改革推進事業「地域魅力化型」

☆ 神奈川県教育委員会指定

「総合的な探究の時間」に係る研究
SDGsテーマとした展開に係る研究

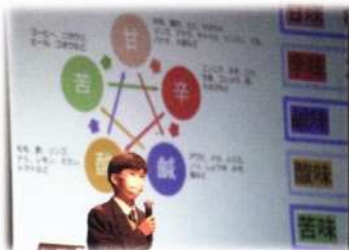
探究成果発表会

令和3年12月18日（土）、松田町生涯学習センターにて、山北町長、副町長、教育長にご臨席いただき、1年生から3年生までの代表6グループがそれぞれの探究活動の成果を発表しました。多くの方々にご出席していただき、ありがとうございました。



研究発表タイトル

- ・心の病気とは何だろう？
- ・犯罪被害減少を目指して
- ・山北町の少子高齢化問題について
- ・コロナウイルスによって破壊された自然とは
- ・保護動物カフェを廃校に作ろう
- ・未病予防の食生活プログラム



山北町を知る

令和3年12月22日（水）、1年生が県立西丹沢ビジターセンターを訪れ、山北町の自然とふれあいました。ガイドの方から森林や自然災害についての話を聞き、環境問題についての知識を深めることができました。



※詳しい活動内容は、神奈川県立山北高校ホームページをご覧ください。

【問合せ】神奈川県立山北高等学校（電話）75-0828（代表番号）



教育委員会だより

第77号 令和4年3月16日
 編集発行 山北町教育委員会学校教育課
 〒258-0195 山北町山北 1301-4
 TEL 0465-75-3648

第1回県立山北高等学校「地域との協働による報告会」



1月14日、100名を超える参加者を得て「伝えよう山北町に。私たちの気づきと思い」をテーマに、山北町をフィールドにして3年間取り組んできた山北高校の地域魅力化型探究学習の成果報告会を開催しました。その様子をお伝えします。

第1部では、はじめに、高校生（3グループ）から、町活性化のための提言が発表されました。制約の多いコロナ禍の中でもしっかりと学びを深め、素敵なアイデアを考えてくれた高校生に会場から大きな拍手が送られました。

次に、山北高校の先生から「やまきた未来コンソーシアム」（高校と地域協働する関係機関で構成された共同体）の協力を得た授業の様子や、研究成果と今後の課題について報告をいただきました。

第2部では、浦崎太郎教授（大正大学）から「高校生の学びの成果を地域に生かす意味」をテーマにご講演いただきました。地域をフィールドに高校生が「探究」するとは、「自分が世の中で活躍できている状態」、それは「自分と世の中が相思相愛の状態」。「自分らしく生きる」とは「恋していること」。探究＝デートです。地域の応援を受けて挑戦・成長した高校生は、伸びて高い実力を身に付ける。地域から受けた恩がわかり、絶対に忘れない。学校・地域協働で「山高生の恋愛成就を応援しよう」と、力強いエールをいただきました。

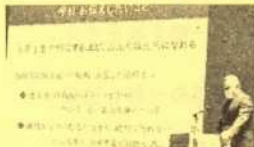
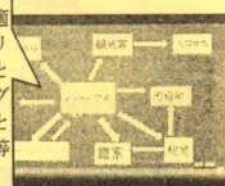
山北町の少子高齢化について気になり、探究を進めていくうちに、年々人口が減少し、少子高齢化も進む危機的状況にある中、町も様々な取り組みをしていることがわかりました。そこで、自分たちが取り組める現代の強い共有手段である SNS を活用し、自分が見つけた山北町の魅力を積極的に発信しよう。



山北町役場などへのインタビューから、山北町に来た人たちが捨てた BBQ のごみや増えた路上駐車などが自然破壊につながっていることがわかりました。そこで、BBQ 場利用時に「基本料金（お灸・ご焼でのデポジット料金）」＋「GoTo 山北券」を支払ってもらい、ごみを残さずきれいに片づけた人にデポジット料金を返金し、山北町で使える商品券を配付する「Let's Go! to 山北」を提案します。



山北町には山林が多く、ツリーハウスに適した木があります。そこで、何も持たずにリゾート感覚で宿泊できるグランピング施設としてツリーハウスをクラウドファンディングで実現したら、山北町に新たな産業の創出と地域活性化、観光客の増加、また人口増加等が期待できるのではないかと考えます。



大正大学 浦崎太郎教授の講演



客席からの質問に答える高校生



高校からの報告



高校生からの提言

参加された方々からいただいた主なご意見・ご感想 (アンケートからの抜粋)

- 堂々と発表されている高校生の姿がとてもたくましく思えました。高校生が地域について考えるだけでもすごいことと思います。それだけでなく行動し発表に至るまでの時間に感銘を受けました。
- 山北高校のことを知らなかったのですが、研究の内容もそうですが、授業の様子も知ることができました。町外から来ている生徒さんも山北を知り、考えてくれている思いがとてもよく伝わってきました。今後の山北町・高校生を大切にしたいと思えます。これからの成長も期待しています。
- 高校生の視点で感じたことアイデアが盛りだくさんでした。何よりプレゼン力、素晴らしかったです。山北町で近い将来力を発揮していただきたいと心から思いました。
- “当たり前”を見直すきっかけやいろいろな友達の意見にふれることでの発見など、高校生だからこそできる経験につながると感じました。自分の子どもの高校でもこんな取り組みがあったらいいなと思いました。
- 山北町の魅力を感じての提案、ありがたかったです。住民もポジティブに魅力を受け入れて、よい町にしていこうと思われました。山北町が、人のための町であってほしいと強く思いました。
- 浦崎先生の講演、素晴らしかったです。大変参考になりました。
- 第2回、第3回とぜひ続けてください。他のチームの発表も機会を見つけて聞いてみたいです。フィールドワークなど、地域住民の積極的な参加も必要であると感じました。応援しています！がんばってください。

6 山北高校未来探究展示パネル（研究成果発表会にて展示、カタパルト作製）

山高の探究は すごいらしい。

他の学校とはちょっと違う。
生徒が学び、生きる力が強くなる
山北高校の探究。

神奈川県立 山北高等学校

山高の探究の基本フレーム

inquiry ?

山高の生徒が3年間の探究で学ぶこと

- 1 年生**
 - 情報の知識の収集 (山北の山北町、歴史・地理的資源)
 - フィールド・ワーク (探究課題の発掘、地質調査、実地調査)
 - 課題発見 (問題意識をもつ、疑問、社会・課題)
- 2 年生**
 - 課題発見 (地理・歴史・探究の実行性を高める)
 - 課題解決の仮説設定 (課題性の高いアイデア、課題性の高い解決方法)
 - フィールド・ワーク (仮説検証のための調査)
 - プレゼンテーション (資料を整理し発表)
- 3 年生**
 - 修正・改善 (2年次の課題解決方法の検証と具現化)
 - 最終発表 (本方に改善した解決方法を発表)
 - 実行 (課題解決方法を実行可能なものは実行していく)

3年間で15の生きるチカラが身につきます。 inquiry ?

探究の学習により3年間で 15の生きるチカラが身につきます。

GET 15 POWERS! inquiry ?

2019 躍動

- 知識の習得
- フィールド・ワーク (山北散策)
- 企業とのコラボレーション探究

成果
講演会やフィールドワークを通して、SDGsの基本知識や山北町の現状・課題について学びました。さらに、企業とのコラボレーションを通して、結本作成などユニークな探究活動に取り組みことができました。

Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School

2019年

Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School

2020 成長

- 未病・地域防災の知識を深める
- フィールドワークでの調査
- マイプロジェクトの設定

成果
未病と地域防災から生徒自身が興味のある分野を選択し、探究活動を行いました。さらに、それまでに習得した知識をもとに、地域の現状・課題についてフィールドワーク(実地調査)を実施しました。

Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School

2020年

Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School inquiry class at Yamakita High School

2020年 (現2年生の1年次)

1 遠征先「熊野」熊野古道のついでに分岐について調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

2 学年集会で進路として今年度の進路について調査隊も発表を行いました。調査隊も熊野古道、熊野古道について調査しました。

3 調査隊のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

4 調査隊のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

5 調査隊のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

6 調査隊のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

2020年 (現2年生の1年次)

Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School

2021 結実

- 1 少人数クラスでのゼミ活動
- 2 プレゼン能力の向上
- 3 地域への提言

成果
少人数のゼミ活動によって教員と生徒が密にコミュニケーションを図ることで、生徒一人一人の肉体的な成長もみられました。さらに、授業の集大成として学年の全員が発表を行いました。

Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School

2021年 (3年生)

1 12月22日熊野古道熊野古道調査隊の活動として、熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

2 学年集会で進路について発表を行いました。調査隊も熊野古道、熊野古道について調査しました。

3 この学年の調査も発表準備も完了することもあり、このグループで熊野古道のフィールドワークを行うことになっています。

4 各学年から代表グループとして3グループ発表を行いました。調査隊も熊野古道、熊野古道について調査しました。

5 調査隊も熊野古道、熊野古道について調査しました。

6 調査隊も熊野古道、熊野古道について調査しました。

2021年 (3年生)

Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School

2021年 (2年生)

1 熊野古道のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

2 熊野古道のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

3 熊野古道のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

4 熊野古道のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

5 熊野古道のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

6 熊野古道のフィールドワークの一環として熊野古道の調査隊も熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

2021年 (2年生)

Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School

2021年 (1年生)

1 自分たちの探究した結果も熊野古道に伝えるためにプレゼンテーション活動の場にも登壇した。

2 熊野古道についての基礎的な知識を学び、それを活用して、探究活動を行った。

3 熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

4 熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

5 熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

6 熊野古道を歩いたことをもち、その歩いた道について調査しました。

2021年 (1年生)

Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School

2022 新展開! 「探究リレー」

- 1 生徒の新たな一面を引き出す
- 2 先輩たちの「提言」を「実現」へ
- 3 地域へのコミットメント

探究のバトンをつなぐ。
サステイナブルな探求を目指します。

成果
先輩たちが3年間を通して行ってきた探究活動の成果を0に留めるのではなく、自分たちの探究を行いながら、先輩たちの成果を「実現」するための探究活動も行っています。

Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School Inquiry class at Yamagata High School

本報告書は、文部科学省の委託事業として、神奈川県教育委員会が実施した令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製・転載・引用等には文部科学省及び神奈川県教育委員会の承認手続きが必要です。

令和3年度

文部科学省事業

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（第3年度）

令和4年5月発行

発行者 神奈川県立山北高等学校

〒258-0111 神奈川県足柄上郡山北町向原 2370

Phone 0465-75-0828 Fax 0465-75-1770

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/yamakita-h/>